

2009年度 環境活動レポート

(活動期間:2009年12月~2010年11月)

承認	作成
	

作成日:2010年12月1日



有限会社 初崎製作所

目 次

組織の概要

対象範囲

環境方針

環境目標

環境活動計画

環境目標の実績

環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟

等の有無

代表者による全体評価と見直しの結果

組織の概要

事業所名 有限会社 初崎製作所
代表者名 代表取締役 初崎 常利
所在地 〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 5287 - 8
事業内容 **半導体部品関連**
・チップセンサー組立、電気特性検査
・ICパッケージ 外観検査
・ICパッケージ ブレイク加工
電子部品関連
・地震計ピックアップ組立
事業規模 主要製品生産量 9.08トン(2009年度)
資本金 500万円
延べ面積 561 m²
従業員数 36名(2010年12月1日現在)
事業年度 12月～翌年11月
環境管理責任者 専務取締役 初崎 哲也
連絡先 TEL.0265-85-3137
FAX.0265-85-5569
E-mail:hatsuzaki3@leaf.ocn.ne.jp
環境事務局 製造部 野近 勇希
連絡先 E-mail:hatsuzaki2@poem.ocn.ne.jp

対象範囲

対象期間 2009年12月～2010年11月
発行日 2010年12月1日
登録組織名 有限会社初崎製作所
認証・登録の対象活動範囲 半導体部品・電子部品の製造
関連事業所 なし
認証・登録番号 0004675



環境方針

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される資源への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、半導体部品・電子部品の製造などの事業活動における環境負荷の低減を図るため、全社一丸となって自主的、積極的に環境保全活動に取り組みます。

< 環境保全への行動指針 >

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- 環境に配慮した製品の製造・生産ラインの構築に努める
- 化学物質の管理・使用量削減に努める
- 購入物資のグリーン購入に努める
- 地域の環境保全に貢献するよう努める
- 業務と設備の管理を行い、二酸化炭素排出量の削減に努める。
- 電力、化石燃料の削減
- 水資源の節約に努める。
- 廃棄物の削減及び再資源化に努める。
- ごみ回収と分別の徹底・紙の使用量の抑制

これらについて環境目標、活動計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。

- 2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして取りまとめ公表します。
- 4. 環境方針を全従業員に周知させ、環境保全に対する意識の向上に努めます。

改訂：2010年12月01日

制定：2008年12月01日

有限会社 初崎製作所

代表取締役 初崎 常利

環境目標

- ・2008年度実績に対し、中期計画(2009年度～2011年度の3年間)で
二酸化炭素排出量(電気使用量と自動車燃料)については各6%削減する
総排水量(上水道と地下水)については9%削減する。
廃棄物排出量については10%削減する

・2007年度～2008年度実績

	単位	2007年度実績値	2008年度実績値
二酸化炭素排出量(電力)	kg - CO ₂	117,908	78,101
二酸化炭素排出量(自動車燃料)	kg - CO ₂	7,368	7,997
総排水量	m ³	331(上水のみ)	419(地下水含む)
一般廃棄物排出量	kg	-	187

電力の排出係数は0.378で算出

・2009年度～2011年度目標

	単位	2009年度目標	2010年度目標	2011年度目標
二酸化炭素排出量(電力)	kg - CO ₂	76,539(2%削減)	74,977(2%削減)	73,415(2%削減)
二酸化炭素排出量(自動車燃料)	kg - CO ₂	7,837(2%削減)	7,678(2%削減)	7,518(2%削減)
総排水量(上水のみ)	m ³	407(3%削減)	394(3%削減)	382(3%削減)
一般廃棄物排出量	kg	178(5%削減)	172(3%削減)	168(2%削減)

環境活動計画 2009年度目標(2009年12月～2010年11月)

	単位	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
二酸化炭素排出量(電力)	kg - co ₂	6,378	6,378	6,378	6,378	6,378	6,378	6,378
二酸化炭素排出量(自動車燃料)	kg - co ₂	652	652	652	652	652	652	652
総排水量	m ³	51	13	9	64	16	54	15
一般廃棄物排出量	kg	15	15	15	15	15	15	15

7月	8月	9月	10月	11月	合計
6,378	6,378	6,378	6,378	6,378	76,539
652	652	652	652	667	7,837
55	14	60	10	46	407
15	15	15	15	16	178

項目	活動内容	対象
二酸化炭素排出量の削減	不要照明の消灯	全社
	必要以上の照明の削減	全社
	不要待機電力の削減	全社
	設備稼働率の向上	全社
	工程改善の検討	全社
	エコドライブ10の推進	全社
総排水量の削減	節水運動の推進	全社
	地下水を含めた基準値及び目標値の見直し	全社
	トイレの節水	全社
一般廃棄物の削減	廃棄物分別ルールの実用	全社
	目標値の設定	全社
	帳票類の見直し	全社
	私物ゴミの持ち帰り	全社

環境目標の実績

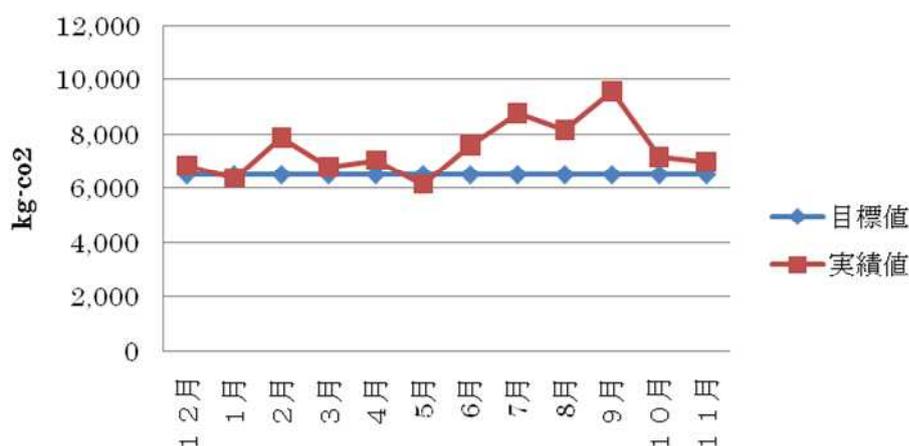
	単位	2009 年度目標	2009 年度実績	判定
二酸化炭素排出量(電力)	kg - CO ₂	76,539	89,348	未達成
二酸化炭素排出量(自動車燃料)	kg - CO ₂	7,837	7,532	達成
総排水量	m ³	407	437.8	未達成
一般廃棄物排出量	kg	178	171	達成

環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

・二酸化炭素排出量(電力)

二酸化炭素排出量 (電力)	単位		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
			kg - CO ₂	目標値	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508	6,508
kg - CO ₂	実績値		6,837	6,384	7,866	6,805	7,046	6,152	7,590	8,772	8,168	9,571	7,171	6,987	89,348

二酸化炭素排出量（電力）

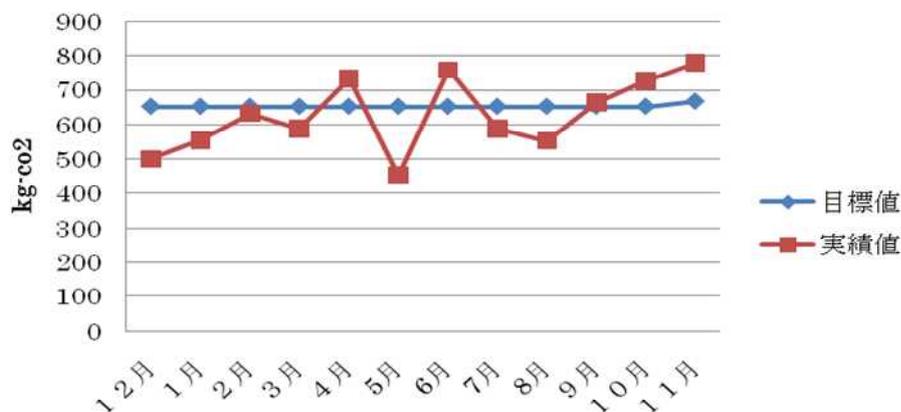


評価：目標値に対して達成できなかった。その要因として全社で節電運動を進めてきたが、仕事量増加により電気使用量も増加した。また7・8月の猛暑によるエアコン使用量増加も大きい。今後も節電運動の徹底、効率的な設備の稼働に努めていく。

・二酸化炭素排出量（自動車燃料）

単位			12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
二酸化炭素排出量 (自動車燃料)	kg - CO2	目標値	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	667	7,837
	kg - CO2	実績値	501	555	632	588	734	454	758	587	553	663	727	779	7,532

二酸化炭素排出量（自動車燃料）



評価：月別では達成できない月もあったが、累計では達成した。エコドライブ10と不要な使用を抑制したためと考えられる。

・総排水量

	単位		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
総排水量	m ³	目標値	51	13	9	64	16	54	15	55	14	60	10	46	407
	m ³	実績値	7.2	51.1	27.6	41.0	12.0	49.2	14.7	59.1	31.0	66.8	17.5	60.6	437.8

評価：未達成となった。その要因として仕事量増加により、社員数が20人から36人になりトイレ・洗面所の水使用量が増加したためと思われる。今後も節水運動を徹底していく。

・一般廃棄物量

	単位		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
廃棄物排出量	kg	目標値	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	178
	kg	実績値	10.8	11.7	6.6	14.6	12.6	8.8	30.2	5.3	13.0	9.5	23.1	25.7	171.9

産業廃棄物排出量	粘着シート	シリンジ ディスコカップ 樹脂容器 プラスチック蓋 キャピラリケース	ニードル	ガラス瓶 キャピラリ	指サック ゴム手袋	その他	合計
単位：kg	16.3	24.0	0.4	5.7	9.4	0.1	55.9

評価：月別では達成できない月もあったが累計では達成した。今年度から始めた産業廃棄物の分別と私物ゴミの持ち帰りが大きかった。資源プラスチックについては前年度 19.6kgから 16.6kgに、廃プラスチックについては 64kgから 34.7kgに削減した。ただし仕事量増加で可燃ごみは前年度 94.8kgから 120.6kgに増加しており、帳票類見直しや書類の電子化が求められる。

産業廃棄物についても今年度から分別・計測を行い以上の結果が得られた。一般廃棄物と合計すると 227.8kgとなり、昨年より排出量自体は増加してしまった。今後は産業廃棄物についても排出量を減らす努力が求められる。

・教育・訓練の実施

・1月に有機溶剤の緊急事態教育を行い、有機溶剤の扱い方、緊急事態が起こったときへの対応を確認した。

・7月に独立行政法人 環境再生保全機構のビデオ「みんなで考えよう 地球環境問題」を鑑賞し、環境保全への理解・意識向上が高まった。合わせて今後の環境教育の参考のため、全社員にアンケート調査もを行い、環

境への理解度や興味のある分野についても調査した。

・8月に緊急事態訓練を行った。今回は初めて消防署員の方に訓練を見てもらい、指導・講評をいただいた。



・写真で見る今年度の取組



・10月に空調室に発泡ウレタンを充填し、空調の効率を高めた。



・有機溶剤の保管場所を隔離し、施錠と漏洩対策の効果を高めた。



・トイレに節水とトイレペーパー節約の表示を
するとともに使用量を調査し、双方の使用量削減を図った。



・基本的に全ての設備に節電の表示をし、温度に
についても表示で徹底を呼び掛けた。

・次年度の取り組み

二酸化炭素排出量について電力は目標を達成できなかった。2010年度からは太陽光発電、LED照明の導入を行い、使用電力を削減する。また節電運動についても休憩時の消灯や、終業時の設備の電源 OFF など改善していく点はまだまだ有る為、今後も周知徹底と行動の推進を行う。

また2009年度版ガイドラインに対応した環境方針を策定。

環境に配慮した製品の製造・生産ラインの構築

化学物質の管理・使用量削減

購入物資のグリーン購入

地域の環境保全に貢献する

以上についても活動を行っていく。

また引き続き全社(全従業員)の取り組みとして環境保全への理解・意識向上を環境活動教育にて促進し、環境経営システムの更なる向上を目指す。

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況

分類	名称	該当する要求事項	該当する設備・品物	管理部門	遵守評価
灯油	消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可	灯油タンク	社長(初崎常利)	
フロン類	フロン回収・破壊法	・破棄時のフロン類の適正かつ適切な回収措置	エアコンディショナー コンプレッサー	環境事務局	
リサイクル	自動車リサイクル法	・車検又は廃車時のリサイクル費用の支払い	社有車	環境事務局	
化学物質	労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)	・有機溶剤取扱所での掲示 ・有機溶剤を取り扱う作業員への教育 ・有機溶剤作業主任者の選任	・アセトン ・キシロール ・メタノール ・IPA ・エタノール	有機溶剤作業主任者	
化学物質	毒物及び劇物取締法	・盗難・漏洩防止 ・容器への表示 ・保管施設の表示	・メタノール ・キシロール	有機溶剤作業主任者	
化学物質	PRTR法	・他の事業者へ譲渡・提供する場合のMSDSの提供義務 ・当該物質の環境への排出量等を把握し、国に報告	・キシレン ・銀 ・コバルト及びその化合物 ・マンガン及びその化合物 ・ビスフェノールA型エポキシ樹脂	有機溶剤作業主任者	
産業廃棄物	廃棄物処理法	・廃棄物集積場の保管基準遵守 ・廃棄物処理業者との契約、許可書の確認 ・マニフェストの交付、回収、保管 ・マニフェスト交付状況を県知事に報告(毎年6月30日まで)	廃棄物集積場	環境事務局	

・違反、訴訟等

環境関連法規への違反はありません。

過去3年間近隣からの苦情はありません。

又、監督機関からの違反等の指摘もありません。

代表者による全体評価と見直しの結果

見直しに必要な情報		変更の必要性の有無・指示事項
(環境管理責任者の報告)	(環境管理責任者のコメント・提案)	(代表者)
[取組状況の評価結果]	[環境方針]	[環境方針]
環境関連法規制等の遵守状況 法規制の遵守に関しては違法・問題点はありませんでした(別紙参照)。 是正及び予防処置の状況 緊急事態訓練を受けて「防火・火災予防手順書」を改訂しました(別紙参照) 前回までの代表者の指示事項の対応特にありません。	2009年度版ガイドラインに対応したものに改訂する。	変更の必要性なし(新規追加項目の全社員への周知徹底と目標活動計画を推進すること)。 変更の必要性: 無
[目標・環境活動計画の達成状況]	[環境目標・環境活動計画]	[環境目標・環境活動計画]
二酸化炭素排出量が未達成。特に電力使用量が目標に対し大幅に増加した。原因として生産量増加が考えられる。今後も節電の徹底を推進する。また、廃棄物排出量については超過した月もあるが累計では目標を達成した。水資源排出量については目標を達成できなかった。人員の増加によるものと考えられる。今後も節水を推進する。また来年度から上水も社内で測定し、精度を高める。	2009年度版ガイドラインに対応したものに改訂。 但し、二酸化炭素排出量、水資源排出量、廃棄物排出量については売上ベースで評価することも検討する。	二酸化炭素排出量、水資源排出量、廃棄物排出量については2009年度版実績を元に目標値の再設定を行い、より実績に見合ったものにする。 変更の必要性: 有
[周囲の変化状況]	[その他の環境経営システムの各要素]	[その他環境経営システムの各要素]
外部コミュニケーション記録より特に苦情・要望事項等はありません。 境関連法規制等の動向他 PRTR法が改正された。	2009年度版ガイドラインに対応したものに改訂。	変更の必要性なし。ただし推進委員について今後入れ替えることを検討すること。 変更の必要性: 無

最後までお読みくださってありがとうございました。